2019年01月12

老子会会報

老子会　主催

第013号

老子会のモットー

「老子の道の精神を生かし、自分を変え、世界を変え、未来を変え、世界平和を構築し、人類の幸福を推進していく」ことをモットーとする。

第５８回老子会から

第58回の老子会は2018年1２月13日(土)15:00～17:00大阪国民会館で実施しました。『老子』第73章を勉強しました。

原　文

勇於敢則殺、勇於不敢則活。此兩者、或利或害。天之所惡、孰知其故。天之道、不爭而善勝、不言而善應、不召而自來、繟然而善謀。天網恢恢、疏而不失。

書き下ろし文

敢えてするに勇なれば則(すなわ)ち殺され、敢えてせざるに勇なれば則ち活かさる。この両者、或(ある)いは利あり、或いは害あり。天の悪(にくむ)む所、孰(たれ)かその故を知らん。天の道は、争わずして善く勝ち、言わずして善く応じ、召さずして自ら来たし、繟然(せんぜん)として善く謀る。天網(てんもう)恢恢(かいかい)、疏(そ)にして失せず。

現代語訳

裁判官が勇気をもって刑を執行すれば罪人は殺され、勇気をもって刑を免除すれば罪人は生き延びる。この二種類の勇気は、それぞれ時と場合によって良いとされたり悪いとされたりする。人間の裁きでさえその是非を判断するのは困難なのに、天の裁きについてはなおさら人の身で理解するのは困難である。大いなる天のやり方は、争わずに勝利し、言葉を用いずに応え、呼びよせずに自ら来させ、ゆったりとしながら遠大な計画を内に秘める。天が悪を捕える網は、粗い目をしているように見えて悪を決して逃しはしない。。

理解のヒント

昨今、度重なる企業の偽装記載、総理の疑惑など官民の不祥事が相次いでいる。2007 年を代表する漢字に「偽」が選ばれたのはその表れだが、偽りとは人が為すことと書くがそのまま解釈しなければならないのは極めて悲しいことであるが、その偽りは黙って見過ごされるはずがない。老子の第 73 章に、「天網恢恢、疎にして漏らさず（てんもうかいかい、そにしてもらさず）」という言葉がある。

この意味するところは、天が張りめぐらした網は、広大で目はあらいようだが、悪事を働いた者を取り逃がすことは無い。天道は公平で決して悪人や悪事を見逃すことはないという 意味である。

特に近年発生している不祥事は、内部告発と言う「天道」によって発覚したものであ り、不祥事の予防や、摘発に向けた様々な法整備が進んでいる。

解　釈

法や刑罰を執行する立場の為政者に対しては、自分や一部の利害ばかり考えて法を濫用せずもっと大きな視点に立った上での法益を考えて司法を行えというような意味であろうか。
最後の言葉は「天網恢恢疎にして漏らさず」とも言われるである。悪事を働けば必ず天罰を受けるというような意味で昔から使われてきた言葉である。

ただし注意すべきは、この章でいわれる「悪」というのは人間の感覚で言うところの善悪とはまた別のものだという事であろう。天の網を粗く感じるのは人間が天(あるいは自然)の雄大さを理解しないからで、時と場合によって善悪の判断が分かれるような事例に天は関知しないという様な意味も含まれているのだと私は考える次第である。

なにごともむやみに行動をすれば、自ら危険を招く。

なにごとに対してもためらうものは生かされる。この二つの行動には利益があったり害があったり。天の嫌うところを誰が分かろうか？

“勇於敢則殺，勇於于不敢則活”

これは、前後の章との関係から、裁判を行うものについて述べたものとする説もあるらしいです。（道は無為であるから）そうであるから、聖人にもそれは推し量りがたい。天の道理とは、争わないのに上手く勝ち、言葉を発せずとも、うまく応答する。

招かなくても自ずから来させ、寛大でありながらうまく計画されている。天の法の網は粗いようでありながら、何ごとも見逃すことは無い。

どんな規則や法律にも抜け道はあるわけで、網の穴を小さくしたところで、穴が開いていることに変わり

はないわけである。だったら、どーんと構えていたほうがかえってその包囲網からは逃れられない、そういうものなのかもしれない。

なんとなく理屈は分かるような気がするのですが…それに、天の網は愚かな人間にはただ広くて粗いだけに見えるのかもしれない。

争わないで勝つ、高尚なことのように見える、だけど、これってとっても狡猾である。

天網恢恢疎にして漏らさず(てんもうかいかいそにしてもらさず)

天網恢恢疎にして漏らさずとは、天罰を逃れることは決してできないということのたとえ。「天網恢恢」を「天網怪怪」と書くのは誤り、天が悪人を捕えるために張りめぐらせた網の目は粗いが、悪いことを犯した人は一人も漏らさず取り逃さない。天道は厳正であり、悪いことをすれば必ず報いがある。

天が悪人を捕えるために張りめぐらせた網の目は粗いが、悪いことを犯した人は一人も漏らさず取り逃さない。天道は厳正であり、悪いことをすれば必ず報いがある。

分かりやすく

罪人を裁くのに、ふみ切ることに勇敢であれば人を殺し、ふみ切らないことに勇敢であれば人を活かす、とか。この二つの態度は、人為の立場では、あるいは利とされあるいは害とされる。しかし、天が何を罪として悪むのかその真相は誰にも分からない。

だから聖人でさえ、それを知ることを難しとするのだ。いったい、天の理法は、争わないでうまく勝ち、言（ものい）わなくても自然にやってき、招かなくても自然にやってき、おおまかでありながら、うまく計画を立てる。

天の法網は広く大きく目はあらいが取りにがすことがない。すべてを天の理法に任せればいいのだ。

天道が積極的な事を何もなさずして、しかももらすところなく何事をもなしておることを述べている。

ある正直商人（あきんど）の末路正直者がバカを見る時代を生きのびてきた正直者の商人が、正直（まじめ）に生きることがだんだんバカバカしくなってきた。

なぜなら、詐欺まがいの売り込み口上でどんどんモノを売って儲けている同業他社に比べてうちは昔ながらの商売のやり方をしているのに売り上げが上がらないからだ。こんな世知辛い世のなかでキレイゴトはいっていられない。

生きるためには多少のチョンボも仕方ない。インチキ商売をやっている輩に倣って、いつしか自分にも他人にも不正直に生きるようになった。かくしてこの元正直商人の末路は悲惨なものであった。**道（タオ）に反した生き方をしているうちは何をやっても上手くいかない。**

人の裁きより天の裁き翻って、個人の生死から国の興亡まで、全て天道によるものであるから、人間の知恵では推し量れないものなのである。天のはたらきは、何もしないようであるが、実はすべてを見通している。誰もこの天の網から逃れることはできない。

裁判官が思い切った決断に勇敢であると、罪人は殺される。思い切らないで保留することに勇敢であると、罪人は生き延びる。

この二つの勇断は、裁判官にとって、それが利益であったり、害があったりということで決められる。しかし、天の裁断でにくまれることになると、その理由は誰にも分からない。
それゆえ、聖人でさえもそれを知るのは難しいとしている。
「敢てする」おそれ憚（はばか）らずに思いきって行動すること。勇敢なこと。
「敢てせざる」ぐずぐずして踏ん切りがつかにこと。
「敢てするに勇」、「敢てせざるに勇」この二句についていろいろな解釈がある。

最初の解釈は、罪人を裁くときの裁判官の態度とみている。それによって罪人の死活が決まるのだという。二番目の解釈は、一般的な人の行動の裁きとしている。

「天の悪む所」　自然の摂理を擬人化した言い方、自然の裁きを指している。何事にも進んで果敢に行動する者は殺される。

何事にもぐずぐずと尻込みする者は生かされる。この二つの生き方は、利益があったり損害があったり、天が何を嫌うのか、誰にその訳が分かろうか。そういうわけで、聖人でさえ自然の道理を知ることは難しいとしたのだ。

雑　感

この章では、威圧による刑罰政治を批判し、人間のさかしらによって、利害にとらわれた立場で裁断することをやめて、無為自然の天の摂理にゆだねるのがよいと述べている。天の道は、ただ無為自然であって、そこに自ずからな法則があるのだ。

「天網恢恢、疎にして失わず」という言葉は、日本では**「天網恢恢、疎にして漏らさず」**として知られている諺である。天はみんなお見通し、人間の悪事は必ず滅びることを言う名句である。天はその自ずからな法則を、人々の上に一人も漏らすことなく、広くゆきわたらせているのだという。

天は大きな網を張っている。その目はいかにもあらいように見えるが、小さな善行も決して漏らさない。天は善行者には、必ず幸いを授けるはずである。

天の道に従ったら、争わないでも勝つし、尋ねなくても応えてくれるし、招かなくても成功はやってくるし、滅茶苦茶大きいのにうまく工夫されているよ。

天の網はすべてを包みこむんだ。その目は粗いけど、何も逃さないんだよ。

老子会の『人』秦爽さん

秦爽さんは中国北京出身

来日後、大阪教育大学大学院美術部修士課程に学び修士号を取得。

後に関西大学大学院文学部博士課程を修了、文学博士を取得しました。

卒業後は、日中中小企業機構などで「中国向け営業、翻訳、通訳」に従事。学生時代から、専門学校や大阪府の高校等で「中国語講師」としても活躍、現在も「甲南大学中国語講師」をされています。

※大阪府教育委員会教育サポーター、大阪市生涯学習センターインストラクターの任にも就いています。

２０１５年には、日中文化芸術サロン「秦皇閣」を開設。船場センタービルの一角で、多彩な活動を続けています。

胡金定先生の主催で「中国落語」をはじめ、「二胡、三味線、茶道、華道、文楽、京劇」と、多岐にわたるイベントも企画・実施しました。

サロンでは、日中の工芸品も販売。見ているだけで楽しくなります。授業等でお留守のことこともありますが、いつも美味しい中国茶をふるまってくださいます。

中国語、書道、水墨画、詩吟、健康茶、薬膳料理などの講座も同時に開設されています。みなさんも、一度足を運ばれては如何でしょう。

秦さんは「昔から今日まで伝承してきた、日中両国の人々の風習や祭り、行事などを自由にお喋りしながら、実際にそれに関わる文化を体験。日中文化を通して、日中両国の人々の心が通うことができる架け橋を目指します。」と仰っています。

子供のころから「京劇」の愛好者で、プロのように毎日稽古して、三年前から舞台出演もするようになり、京劇役者に顔負けしないほどの芸の持ち主でもあります。京劇愛好者サロンも催しています。

名前の通り、笑顔の爽やかな秦さん。「真・善・美」を求めることを人生の信念とされています。

＜老子会の皆さんへ＞

老子会の皆さんと、一緒に勉強できることを楽しく思っています。

（余保充徳）

第57回老子会」のご報告

老子会の皆様には、いつもご協力ありがとうございます。11月は甲南大学で22名出席の中、第72章を学びました。老子漫画フリートークでは、活発な発言や意見があり、充実した内容になったと喜んでおります。12月は、今年最後の老子会で忘年会となります。「京劇」と「ギター演奏」を披露していただきます。ビンゴゲームでも楽しんで参りましょう。

石井　政　事務局長

【今後の日程】

１月１２日（土）第59回老子会　15:30～17:00　毎日文化センター

２月２３日（土）第60回老子会　15:00～17:00　毎日文化センター

※終了後の懇親会会場は、虎の穴の予定です。

【学外研修】

明年春に「せごどん九州（鹿児島）の旅」を計画しています。

日時：３月８日（金）夕方に大阪南港出発、同１１日（月）早朝に大阪南港帰着

（さんふらわあで船中２泊、現地１泊）

老　子　会

〒658-8502

神戸市東灘区岡本8-9-1

甲南大学　国際言語文化センター　胡金定研究室

石井政事務局長　090-9169-2820

電話: 078(435)2353

FAX: 078(435)2545

E-mail　kokintei@center.konan-u.ac.jp